



7月・8月の管理ポイント

梅雨明け後は急激な気温上昇が予想され、ベントグラスには非常に厳しい時期となります。ストレス対策をしっかりと行い、夏を乗り切りましょう。

高温ストレスから
ベントを守る

ヒートファイター

ヒートファイターは、ベントグラスが夏の厳しい暑さを生き延びる為のお勧め資材です。有効成分「ゼルンボン」が細胞を刺激することで植物自体が持つ高温耐性が活性化、通常では弱体化・致死してしまう程の高温でも生き延びられるようになります。梅雨明け前からの定期処理で、芝生の高温耐性を最大限引き出しましょう。

使用量：0.5ml/m² 散布水量：100-500ml/m² 散布間隔：14日

強光ストレス予防

インターセプト

梅雨が明けると日差しが一気に強くなります。ベントグラスにとって強すぎる太陽光は強光ストレスを引き起こす原因となります（過剰に発生した活性酸素が細胞を傷つける）。インターセプト処理で強すぎる光（ベントグラスが吸収する波長の可視光、紫外線）をカットし、強光ストレスを軽減しましょう。

使用量：1000-2500倍 散布水量：100-500ml/m² 散布間隔：7-10日

根の生育しやすい
土壤環境を整えましょう

レボ

梅雨明け後も、台風やゲリラ豪雨などにより大量の降雨が予想されます。レボは排水性が高く、表層土壤の水分を低めに保つ効果を持っています。気相をしっかりと確保し土壤中酸素の割合を高くすることで、根が生育しやすい土壤環境を作ります。定期散布を行い、土壤環境を常に良い状態で保ちましょう。

土壤水分を高めに保ちたい場合はプライマーセレクト、発生したドライスポットの治療にはアクアダクトがおすすめです。

使用量：2ml/m²/月 散布水量：200ml~500ml/m² 散布回数：1ヶ月に1回~2回

ドライの予防と治療

ハイドレーターG

乾燥が気になる時に手軽に処理できる、粒剤タイプの界面活性剤資材です。ドライスポットの予防と治療にご使用下さい。降雨前に散布し、後散水の手間を省く省力散布がおすすめです。1mm程度の粒剤なので散布しやすく、5mm程度の散水で溶けます。安全性が高いので安心してご使用頂けます。花壇や鉢植えにもご使用頂けます。

グリーン・ティー 使用量：ドライスポットの治療 20g/m²/週 予防10g/m²/月

バンカー周り・クラブハウス周辺の芝地等 使用量：10g/m²/月

花壇・鉢植え・プランター 使用量：約10Lのプランターに小さじ1/2/月

サッチの除去
土壤環境の健全化

サッチクリーナー

サッチ成分のセルロース・ヘミセルロースを分解する酵素を主成分とした、酵素タイプのサッチ分解剤です。酵素そのものを散布するため即効性に優れており、サッチ分解量をコントロールすることが可能です。液剤であるため取扱いやすく、フィルターに詰まりません。微生物剤ではないので、農薬との混用も可能です。土壤の透水性を改善しましょう。

使用量：グリーン0.2ml/m² ラフ・FW・Tee0.1-0.2ml/m² 散布水量0.2-0.5l/m²

土壤中の悪臭・有害物質除去

光合成細菌

過湿状態の土壤中に発生しやすい悪臭物質である硫化水素やメルカプタンなどは、イヤな臭いがするだけでなく根を痛めます。光合成細菌を処理して有害物質を除去しましょう。光合成細菌は悪臭物質を分解するだけでなく、他の有用微生物の餌となるアミノ酸やATP、ADP（高エネルギーリン酸化合物：補酵素）などを分泌し、有用な土壤微生物の住みやすい環境を作ります。サッチ分解剤と組み合わせると、サッチを効率よく分解できます。

使用量：1~2ml 1l/m²散布 月1~2回

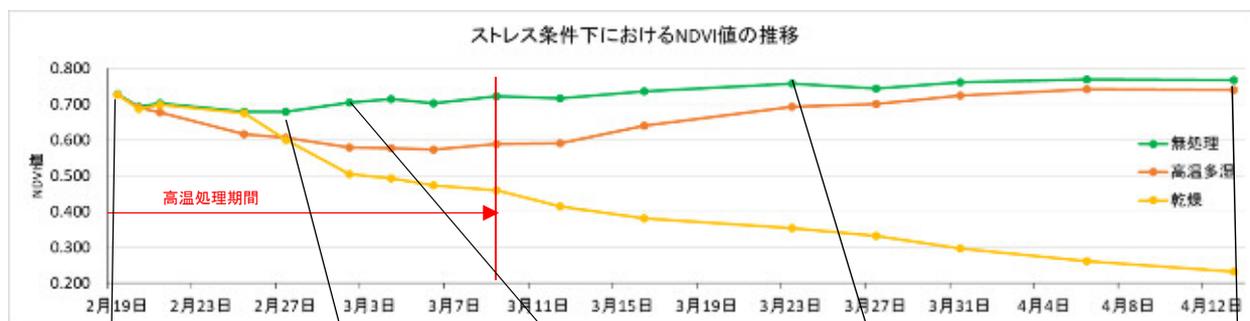
害虫の発生に
あわせて散布

スティンガーフロアブル

7月8月は、スジキリヨトウ、シバツトガ、タマナヤガの重要な防除シーズンです。特に鱗翅目害虫は発生ピークが長く、数種類で混在して芝生を食害するので、殺虫剤のローテーション散布が必要です。スティンガーフロアブルは耐雨性が高くグリーンで1ヵ月、ラフFWで2ヶ月以上の効果が期待できるので、ローテーション散布の基幹剤としてご使用いただけます。

使用量：スジキリヨトウ 0.035ml/m² シバツトガ タマナヤガ 0.05ml/m² 散布水量：50-500ml/m² 使用時期：発生初期

前回は通常条件下のベントグラスのNDVI値の変化について紹介しました。
 今回はベントグラスに様々なストレス(高温多湿、乾燥)が掛かった場合のNDVI値の変化について紹介します。

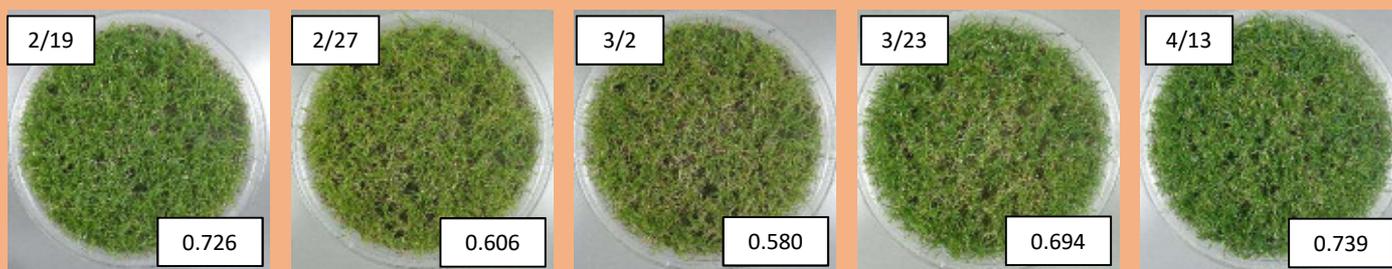


無処理区:平均20℃の室内で栽培。2/27、3/12、3/23、4/6に液肥散布。



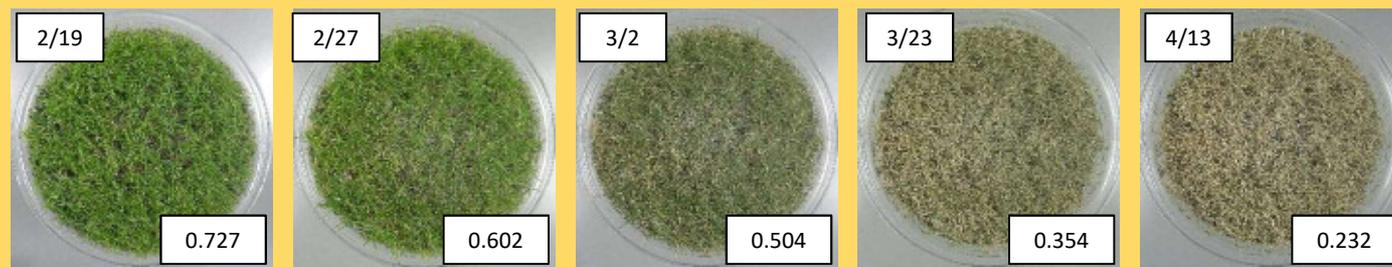
無処理区のNDVI値は安定して0.700前後で推移しています。

高温多湿区:2/19～3/10まで昼間40℃の高温処理



高温処理期間に0.600以下まで下がったNDVI値が、高温処理終了後には無処理と同程度まで回復しています。

乾燥区:2/19以降散水無し



乾燥により地上部が萎れて色が抜けていくにつれ、NDVI値も減少していきます。

高温多湿、乾燥区ともにストレスが掛かっている期間は芝生のNDVI値は減少していきました。
 また高温多湿区では高温処理終了後にNDVI値が増加し、地上部の回復具合も反映されています。
 次回は肥料欠乏と塩害発生時のNDVI値の推移について紹介します。